

東邦ガス、「企業の森」整備

県、大台町と3者調印

東邦ガス（本社・名古屋）が大台町内の町有林を「企業の森」として整備することが決まり、県庁で十五日、同社と県、町の三者による調印式があった。同社は五年間をかけて約一千本の広葉樹を植える予定。

「企業の森」は、民間事業者に社会貢献や福利厚生を目的として森林を整備してもらおうと、県が平成十八年から始めた制度。今回で四十二例目、大台町内では二例目となる。同社が「企業の森」を設

けるのは初めて。「東邦ガスの森おおだい」と名付けた約〇・六二畝の森林に、従業員や家族らが五年間を掛けてヤマザクラやイロハモミジなど、約一千本の苗木を植える。

この日の調印式には、同社の宮崎修二専務、鈴木英敬知事、尾上武義町長が出席。それぞれ「森林育成に共同で取り組んでいく」などとする宣言書に調印した後、宮崎専務が宣言書を読

み上げた。宮崎専務は「未永く自然を守る活動に携わりたい」とあいさつ。尾上町長は、「同社が活動する森林がユネスコ（国連教育科学文化機関）のエコパーク内にあると説明し「意義深い取り組みになる」と述べた。

鈴木知事は「活動を通じて自然の大切さを感じてもらえる点が、この制度の魅力」と強調。「伊勢志摩サミット開催後で初となる企業の森。皆さんで力を合わせて取り組んでほしい」と呼び掛けた。



調印式に出席した（左から）鈴木知事、宮崎専務、尾上町長＝県庁で